

# SAK だより

神奈川県スキー連盟

横浜市神奈川区台町16-1  
ソレイユ台町 407号室  
電話 045(311)8907  
FAX 045(324)6966  
発行者:柴田伸彦  
編集責任:福沢洋彦



## にいがた魚沼国体

『もえる心 みなぎる力 広がる友情』

塩沢町  
六日町

日時:平成3年2月17日(日)  
平成3年2月20日(水)



3位入賞の大野

大回成年  
女子一部A

# 大野が3位に

第46回国体体育大会冬期大会

スキー競技会成績

男女総合(天皇杯) 14位  
女子総合(皇后杯) 9位

コンバインド成年男子 A

5位 村井 延彦

女子大回成年1部A

3位 大野 薫

8位 吉田美輝子

女子大回成年2部

9位 山田恵理子

### 国体に 参加して 飯塚明巳

第四十六回国体冬季大会スキー競技会は二月十七日から四日間、新潟県の塩沢、六日町に『もえる心 みなぎる力 広がる友情』をスローガンに四十七都道府県から二千二百人の選手、役員を集めて

開かれました。岡部哲也、川端絵美という花形選手の参加はなかったものの、ワールドカップ、世界選手権など海外からの転戦組も参加して、盛りあがった大会になりました。閉会式は十七日、雪の降りしきる中、午後一時半から塩沢中学校グラウンドに秋篠宮ご夫妻を迎えて行なわれ、本県代表も岩崎団長以下役員、選手五十人が参加、ネイビーブルーのスキーウェアに身を包み、旗手の前田選手を先頭に入场行進をしました。十八日より行なわれた競技では大回転で、本県では成年女子一部Aに出場した大野選手が見事、三位に吉田選手が八位にそれぞれ入賞し、同二部でも山田選手が九位と健闘し幸先のよいスタートを切りましたが、新潟、北海道、長野という常勝県の壁は厚く、三日目に前日のジャンプで九位につけていた村井選手はクロスカントリーでトップでゴールし、複合で五位に入賞しました。



星野 豊 顧問  
神奈川県体育功労者  
で表彰さる

各クラスとも前評判どりの選手の活躍が目立ち、総合で新潟が優勝し、本県は総合で十四位でした。ゴール近くで本県選手の戦いぶりを観戦することが出来、大変有意義な四日間でした。

全日本関係では、資格付与制度で昨年度特別移行措置を実施し例年になく指導員を誕生させてまいりましたが、全日本と文部省あるいは日体協との協議に食い違いが生じ今年度は、各都道府県連で移行措置ができずに終わりました。スキー連盟と他のスポーツ競技

## 今シーズンを振り返って

理事長 柴田 伸彦

団体とは、おのずと組織の違いがあります。慎重に情勢を判断して神奈川県スキー連盟の態度を全日本へ具申したいと思っております。県連執行に話しを戻しますが、各専門委員会も積極的な動きを見

座間スキー協会の創設に貢献、そして神奈川県スキー連盟副会長としての職責を永年にわたり務められるなど、スキー連盟強化部門の運営と充実に尽力され、ここに『体育の振興に顕著な功績を挙げた者』として神奈川県体育協会から、神奈川県功労者表彰が授与されました。

実施した、パターンに戻し参加しやすくいたしました。又プロック技術員も大幅に増員して行事参加者への班構成緩和に努めました。

強化部においては、効率的な大会運営とジュニア、一般選手の効果的な選手強化に取り組んでまいりました。国体においては、14位で昨年より順位を下げましたが、確実に技術アップにつながっています。いずれにしても県連執行に際し『やりたいこと』『やれること』があり、たいいの場合、理想と現実は一貫しない。けれどその差をいかにギャップをなくすか懸命に努力したいと考えています。皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。

## 今頃、ニュージーランドはスキーパラダイス

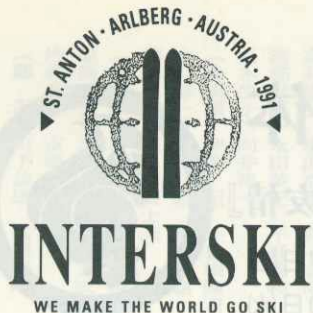


ニュージーランドスキーツアー マウントハット クライストチャーチ のご案内

**Aコース** 日程: [自] 平成3年8月8日(木) [至] 平成3年8月16日(金)  
費用: ¥350,000  
人数: 60名募集 (定員で締切)

**Bコース** 日程: [自] 平成3年8月22日(木) [至] 平成3年8月30日(金)  
費用: ¥290,000  
人数: 60名募集 (定員で締切)

申込: ・受付期間 平成3年6月1日~平成3年6月28日  
・申込先 日新航空サービス株式会社 担当者 細井・菅原  
・申込金 ¥50,000  
・振込先 第一勧業銀行四谷支店 普1135192  
日新航空サービス株式会社  
※詳細問合せ 日新航空サービス株式会社 03-3359-7224



# AUSTRIA **St Anton am Arlberg**

## 第14回インタースキー報告

インタースキー日本公式代表団本部役員  
公式視察団 副団長 片岡 春 夫



とされ「世界中の人々がスキーに  
WE MAKE THE  
WORLD GO SKI」

第14回インタースキーは、我が  
国基礎スキー、いや世界の基礎ス  
キー界の発祥の地とも言えるオー  
ストリア・サンアントンで開催さ  
れた。  
神奈川から30数名参加  
神奈川県スキー連盟からも公式  
派遣視察員として、山田普及部長  
をはじめ、指導員や一般会員など  
多数の方が参加した。  
本部役員として参加  
小生もインタースキーには、第  
11回の蔵王会場から始まり、第12  
回イタリヤ・セクステン、第13回  
カナダ・バンフ、そして今回と色々  
な立場で参加してきたが、日本を  
代表とする本部役員としての参加  
は始めてであり、そのスケジュ  
ルの過密なことには、ほとほとく  
たびれました。  
過密スケジュール  
視察団員として参加したときは  
一応のスケジュールはあるものの  
参加者自身の選択が自由であり、  
その意味では、それなりの楽しさ  
を味わうこともできた。  
今回の日程の一例を紹介すれば、  
毎日午前中は、各国のデモンスト  
レーション発表、午後は、各種の  
シンポジウム、ワークショップ、  
レクチャー、そして各方面の主催  
によるパーティが、毎日夜の10時  
頃まで続き、そして更に日本団の  
スケジュール打ち合わせ等々、結  
局は自室で一杯やれるのは深夜12  
時過ぎであり、今更泣き言ではな  
い。表面的には格好良く見える代  
表団ではあるが裏側の実体はこの  
ような状況であった。  
世界の指導者が集結  
さて、本題に話を戻すが、今回  
のメインスローガンは、  
WE MAKE THE  
WORLD GO SKI

行き、そしてスキーを心から愛し、  
スキースポーツを楽しめるよう全  
員で努力しよう。」とも言うので  
あるが、世界29ヶ国からの参加  
で、日本風と言えばチロル・アー  
ルベルグ地方の一山村に世界各国  
のトップレベルの指導者と、各国  
を代表するデモンストラーターが  
集結したものである。  
ナショナルデモの考え方  
詳細の日程・会議・デモンスト  
レーション等については、スキー  
関係誌で紹介されるので省略させ  
ていただき、今回はあまり表面に  
発表されない、日本のナショナル  
デモの演技の考え方について、全  
日本スキー連盟の資料から転載す  
る。



この資料は前回カナダ・バンフ  
のインタースキー以降、我々指導  
員研修会で採り上げられてきた、  
研修テーマと深くかつ直接関係し  
ていることに注目していただきたい  
。

### 運動の 調和と個性 ナショナル デモンストレー ションの説明

う。  
そして、今、これまでの伝統を  
基礎にして、新たな可能性を求め  
て胎動をはじめているのである。  
新しい時代、それは、スポーツ価  
値観が大きく変化するように、イ  
ンタースキーそのものも、周界の  
動向をみて、慎重に変わっていく  
なければならない。変化とは進歩  
なのである。  
テーマについて  
日本のナショナルデモンストレー  
ションのテーマは、「調和と運動  
の調和」と個性」である。  
この抽象的なテーマを理解して  
いただくには、概要の説明が必要  
である。  
1、背景  
これまでの日本のスキーの指向  
は、工業化社会の特性と同じく、  
勝負に勝つ、とか、環境を征服す  
るというような能力指向であった。  
それが、情報化社会を迎えて状況  
が変わってきている。つまり、今  
までのように能力向上一辺倒では  
なくなり、あそびや健康保持、あ  
るいは社交や教育、文化的な活動  
として、ひろく生活に与りこんで  
きたのである。  
そして、現在は第二次的なスキ  
ーブームと言える活発な活動を見  
せている。しかし、その中で、現  
在、様々な問題も発生しているの  
である。  
基本的状況とその変化  
問題点をさぐるうえで、まず知  
っておかなければならないのは、  
我々がおかれている基本的状況で  
ある。  
現在に至る日本のスキー環境の  
形成は日本経済の高度成長期にあ  
たる1960年代から70年代に  
かけて始まった。  
技術が高度に発達した社会が技  
術環境を作りだし、我々は、かつ  
てないほどの利便性と機能性と快  
適性を日常生活に於て享受できる  
ようになってきたのである。  
これらの技術環境は主に大都市  
及びその周辺において見られるも  
のであり、必然的に地方から都市  
へと人口の流入も促進された。  
そして、都市人口の増加は、さ  
らに都市の機能や利便性を拡大し、  
都市化の波は地方へと及んでいく  
ようになってきた。このような技術  
環境の拡大期に多くのスキー場が  
誕生している。  
しかし、当初のスキー場では、  
どこもが機能的で快適性を備えて  
いたとは言えない。  
単に利便性のみを売り物とする  
スキー場が多かったのである。  
スキーをしていくという「形式」  
が味われば良かったのである。  
ゆえに、その多くは、低地に位  
置し、小規模な施設という特色を  
持っていた。その環境下でのスキ  
ー技術にも特色を見ることができ  
る。  
もとより、日本のスキーは「形  
式の輸入」から始まっている。  
それが突然の大展開をみせたこ  
とは前述の社会背景と深くかわ  
りがある。  
急速にスキー環境が増大し、ス  
キースポーツへの関心が高まった  
ところへの「外国からの整理され  
たスキー技術や方法の情報は形  
式を重んじる日本人の指向にび  
たりと一致し、極めて短時間のう  
ちにその外型を普及するのに役だ  
つたのである。  
しかし、スキースタイルに捉わ  
れたからこそ、本質は長い間見  
だせなかったと言える。  
2、均整のとれたスキー環境を創  
るための「調和と個性」  
次に、テーマが何をめざしてい  
るのかについて説明する。  
スキーの様式について、ひとつ  
の統一した「形態」を求める時代  
はすでに終わった。  
これまで我々は、どの滑り方が  
最も良いか、について研究し、競  
いあってきたのである。そして、  
そこに現れた「形態の統一」を大

かけて始まった。  
技術が高度に発達した社会が技  
術環境を作りだし、我々は、かつ  
てないほどの利便性と機能性と快  
適性を日常生活に於て享受できる  
ようになってきたのである。  
これらの技術環境は主に大都市  
及びその周辺において見られるも  
のであり、必然的に地方から都市  
へと人口の流入も促進された。  
そして、都市人口の増加は、さ  
らに都市の機能や利便性を拡大し、  
都市化の波は地方へと及んでいく  
ようになってきた。このような技術  
環境の拡大期に多くのスキー場が  
誕生している。  
しかし、当初のスキー場では、  
どこもが機能的で快適性を備えて  
いたとは言えない。  
単に利便性のみを売り物とする  
スキー場が多かったのである。  
スキーをしていくという「形式」  
が味われば良かったのである。  
ゆえに、その多くは、低地に位  
置し、小規模な施設という特色を  
持っていた。その環境下でのスキ  
ー技術にも特色を見ることができ  
る。  
もとより、日本のスキーは「形  
式の輸入」から始まっている。  
それが突然の大展開をみせたこ  
とは前述の社会背景と深くかわ  
りがある。  
急速にスキー環境が増大し、ス  
キースポーツへの関心が高まった  
ところへの「外国からの整理され  
たスキー技術や方法の情報は形  
式を重んじる日本人の指向にび  
たりと一致し、極めて短時間のう  
ちにその外型を普及するのに役だ  
つたのである。  
しかし、スキースタイルに捉わ  
れたからこそ、本質は長い間見  
だせなかったと言える。  
2、均整のとれたスキー環境を創  
るための「調和と個性」  
次に、テーマが何をめざしてい  
るのかについて説明する。  
スキーの様式について、ひとつ  
の統一した「形態」を求める時代  
はすでに終わった。  
これまで我々は、どの滑り方が  
最も良いか、について研究し、競  
いあってきたのである。そして、  
そこに現れた「形態の統一」を大

の開発になり、活用とする  
ならば、当然その主体のメ  
ンタリティーや、元々の機  
能・特質・指向などが色濃  
く反映した運動が形成され  
ていくことが自然である。  
ゆえに、個性という言葉  
を広義に用いれば、日本の  
スキーは、日本人の特質の  
うえに成り立つわけで、そ  
れは、形式、様式などをい  
くら外部から持ち込んでも  
どうにもならない独自性が  
あるということになる。  
日本のスキーの性格や特  
徴を他と比較することは、い  
すでに意味のないことになっ  
る。  
当然、スキーの質の差はある訳  
だが、それは、それで良いのであ  
る。  
世界のスキー様式を統一するな  
どという考え方は根本的に間違  
である。  
もつと主張すべき個性化がな  
されるべきで、現実に情勢はそう  
なっている。  
今、多くのスキーヤーは「形式」  
よりも「実質」を望むようになって  
きた。  
このことは日本に於ける大きな  
意識変化と捉えられる。  
自由なスキーを求めるという考  
え方から、スキーすることは、す  
でに自由であるという考え方に立  
つことが基礎となることによつて、  
日本のスキーの現在の活況があり  
同時に問題も生じているのであ  
る。  
我々のテーマは、その問題点に  
ふれるものである訳だが正直なと  
ころ、対応策のすべてが、今回の  
ナショナルデモンストレーション  
のなかで語れるとは思っていない。  
ゆえに、我々は大きな課題に対  
して、極めて部分になってしま  
うが、現実的に日本で行っている教  
師研修の内容とねらいを率直に発  
表することにしよう。  
(1)個性  
個性とは、簡単に言えばスキー  
をする主体のことである。  
その主体が周界との対峙のなか  
で表していく運動の形態は、やは  
り個性的なものになっていく。  
スキー運動の実現が人間の機能



ゆえに、調和と個性とは対極関  
係に位置するのではなく、同極に  
ある切り離せないものなのである。  
(3)まとめ  
調和と個性というテーマを設  
定する理由は極めて単純なこと  
である。  
前述のとおり、日本が現状抱え  
る問題は単純にスキー技術や指導  
法の改訂で解決するとはおもわ  
ない。しかし、技術に関しては、運  
動経過の本質的なカテゴリーにふ  
れることでより確実化、個性化し、  
さらに、「調和」表現を広く採用し、  
運動の調和のみでなくスキーヤー  
とマテリアルの均整、そして周界  
との均整を企てることにより、スキ  
ー環境のバランスの狂いは相当修  
正されるのではないだろうか。日  
本の新しい発想と日本人のアイテ  
ンティティーを感じとってもらえ  
れば幸である。  
研修テーマの再確認  
最後に、蛇足ではあるが以上の  
ように研修テーマとして採り上げ  
られたものが、今回の日本ナショ  
ナルデモの骨子になっていること  
を認識していただくとともに、比  
較的安易に受けとめられている指  
導員研修テーマの重要性を再確認  
していただければ幸いである。

写真/野村実代・中野善次郎

# インター スキーメモリー

川崎スキークラブ 丸山 禮子



二十五年ぶりのサンアントン  
今回のインタースキーは私にと  
って、前回のカナダに次いで二度  
目の参加でした。  
二十五年ぶりのサンアントン、  
なつかしいアールベルク山々は  
少しも変わっていませんでした。街  
はホテルとお店が少し増えたくら  
いでしょか。  
前夜祭から始まって、閉会式



インターラーケン・  
ヘーエマッテにて

各国選手の中にも効果  
的な様々な音楽が取り入れられて  
いかにも音楽の国の開催という印  
象があったオーストリアはサンア  
ントンでの、非常に素晴らしい  
たインタースキー大会も、1週間  
の全日程が終了した。  
(1991・1・12・19)

## スイス・インターラーケンの休日

川崎スキークラブ 山崎 房子

ケールの諸スキー場を滑るには、  
それなりの足前が必要で、私など  
も、もう、これ以上の同行は迷惑  
をかけるばかりとさつとスキー  
を諦めてしまった。  
こうしてスキーの素早い切り替  
え操作ならぬ観光への切り替えて  
仲間3人と古都インターラーケン

各国のデモンストレーションの見  
学。あとは毎日色々なスキー場を  
滑りまわりました。  
ブデスハイムの見学  
特にバルガーの頂上からサン  
クリストフ迄滑った時は、感無量  
でした。二十五年前日本のスキ  
ー留学に参加し、スキーを習った  
のがきっかけで、私のスキー人生  
が始まったようなものですから。  
新しく建て直されたブデスハ  
イムの中を見学させていただきました。  
素晴らしい設備に目を見はる思い  
でした。  
でも、あの頃の校長だったクル  
ツケンハウザー教授がもういらつ  
しやらないと思うと淋しくてなり  
ません。  
次回インタースキーが野沢ノ  
サンアントンで一週間はあつ  
と云う間に過ぎてしまいました。  
お別れパーティーの席で、次回の

スによって目的地に移動した。  
ここ、グリーンデルワルトは、書  
くには及ばずと言うくらい、世界  
的山岳観光地でスキー場もかの有  
名なアイガーを初めとする急峻な  
峰々にかこまれて、途方もない  
スケールの大ききで点在している。  
しかし、何と言ってもこの大ス  
キによって目的地に移動した。  
ここ、グリーンデルワルトは、書  
くには及ばずと言うくらい、世界  
的山岳観光地でスキー場もかの有  
名なアイガーを初めとする急峻な  
峰々にかこまれて、途方もない  
スケールの大ききで点在している。  
しかし、何と言ってもこの大ス

## 神奈川県高等学校体育連盟 スキー専門部

七年前 高体連S.A.J登録は約  
二〇〇名でしたが平成三年登録  
はおよそ四〇〇名となりました。

昨年七月二十二日の評議員会に  
て規約改定の承認をいただき、そ  
の後横浜スキー協会のご理解をい  
ただき、県連理事会にて「神奈川  
県高等学校体育連盟スキー専門  
部」の県連加盟を申請し、理事會  
の承認をいただきました。  
これは教育機関として全県の高  
校生を掌握する特殊性を皆様にご  
理解いただけたものと確信致しま  
す。  
ジュニアの強化は高体連のみで  
できるものではありません。競技  
団体との太いパイプで結ばれてこ  
そ可能となるものです。今、第一  
歩の前進が始まりました。

### 平成4年度 活動状況

- 強化普及合宿
  - 富山県 立山 7月下旬
  - 神奈川高等学校スキー大会兼  
関東、全国大会神奈川県予選会  
新潟県 津南 1月上旬
  - 関東大会強化合宿  
新潟県 津南 1月下旬
  - 関東高校スキー大会  
群馬県 岩鞍 1月下旬
  - 全国大会強化合宿  
鳥取県 大雪 2月上旬
  - 全国高等学校スキー大会  
鳥取県 大雪 2月上旬
  - 全国高等学校スキー選抜大会  
長野県 梅池 3月下旬
  - 神奈川高等学校スキー新人大会  
長野県 野辺山 3月下旬

神奈川県高等学校体育連盟への登  
録は四五〇名を越えました。競技  
人口の増加はスキー人口の増加を  
如実に示すものです。  
ますます増大するスキー人口に  
対処し、将来を担う選手を輩出で  
きるよう皆様のご指導、ご鞭撻を  
お願いする次第です。

## 足柄スキー協会創立二十 周年記念式典開催す



田原スキー協会から独立し、町村  
の集合体である「郡」内の活動  
は、各協会と異なり運営は非常に  
困難があり、細々と活動を続け  
ようやく軌道に乗りかけてきたや  
うに、南足柄市が分離するなど、  
この二十年間は苦勞の連続であり、  
当日配布した記念誌「足柄のスキ  
ー二十年のシニブル」はまさに  
手作りで、この苦勞がにじみだ  
たものである。  
また、アトラクションとして、  
開成町の「水神 雷太鼓」の披露  
があり、体育館内は太鼓の響け熱  
気にあふれた雰囲気につつまれ、  
なごやかなうちに終了したが、当  
日は大安吉日のため、結婚式、七  
五三等の祝事が重なったことと、  
県連の進捗検定学科試験の日と重  
なり、地元体育協会や当協会の  
参加者が少なく、やや盛り上がり  
に欠けた面もあったのがやまれ  
た。  
なお、第四十二回県連体のスキ  
ー大会では久しぶりに八位となり  
協会一同大喜びでした。(遠藤功)

# 大会 記録

第49回神奈川県スキー選手権大会  
(クロスカンントリー競技)

期日 平成3年1月11・12日  
場所 池の平スキー場

コース スーパーレッドコース

全長 740m 標高差206m

女子部

一位 西田 真実 川崎ユール

二位 能勢英理子 上鶴岡高校

三位 及川 展枝 日大高校

男子部

一位 草薙 大輔 厚西高校

二位 鍋島 真 横浜高校

三位 小川 健司 横浜高校

成年男子部(5km) 17分57秒

一位 葛西 正行 どんぐり

二位 佐藤 一夫 東芝スキー

三位 酒田 勝則 SC カメ

成年男子部(15km) 46分29秒

一位 来山 克治 東芝スキー

二位 川口 茂樹 東芝スキー

三位 谷口 俊之 横浜スキー

成年男子部(15km) 42分05秒

一位 阿部 忠雄 東電コロボック

二位 岡田 戒 東芝スキー

三位 小野寺孝一 NKK

第十一回美津野杯

期日 平成三年一月十二日  
場所 野辺山スキー場

コース スーパーレッドコース

全長 590m 標高差 181m

女子部

一位 能勢英理子 上鶴岡高校

二位 中尾 理恵 横浜スキー

三位 長谷川美枝 日立CE

成年男子部(5km) 20分37秒

一位 山田 晶美 専修大学

二位 秋田美代子 松陰女子短大

成年男子部(15km) 55分50秒

一位 須藤 聡志 専修大学

二位 小塚 裕士 専修大学

三位 阿部 忠雄 東電コロボック

成年男子部(15km) 57分57秒

一位 広瀬 修一 横浜スキー

二位 米山 克治 東芝

三位 川口 茂樹 東芝

成年男子部(15km) 1時間5分18秒

一位 酒田 勝則 SCカメ

二位 坂下 誠光 三菱スキー

三位 和田 茂 日産車体

少年男子部(15km) 1時間12分45秒

一位 草薙 大輔 厚木西高

二位 田中 勇武 横浜高

三位 松井 昭彦 横浜高

二位 星 隆 栃木高校

三位 佐野 祐介 白山中学校

種目 大回戦

期日 平成三年1月19日・20日  
場所 妙高高原池の平  
スキー競技会

南関東ブロック・ノルディック  
競技会、兼第48回国体スキー選  
考会、兼第13回神奈川県民大会  
スキー競技会



# 普及部

昨年、雪不足で始まった今シーズンの普及部関係行事も、会員の皆様のご協力を得て無事、執行することが出来た事を心からお礼申し上げます。今、各行事を振り返って見ますと、色々な問題点や反省事項がありました。

まず、「文部省認定制度」の問題。この件に関しては現時点におきましても、移行後の権利と義務について不透明な部分が残されており、S A J とともに良く調整をした上で、皆様の一番有利となる方策を考えたいと思います。

さて、県内の執行内容につきましては、昨年300名を越す多数の受験者で行いました。「準指導員検定」が今年度は約200名と減少したものの、「S A K 技術選手権」を始め他の行事におきましても、参加者が増加傾向にあり、各専門委員・プロック技術員をフル

活動し対応を致しましたが、そろそろ限界にきているとも思われますので、次年度へ向けて行事内容の見直し等、も考えたいと思っております。

また、全般的に「技術レベルの低下」も気になる点であり、レールアップの方策についても、普及部専門委員会等で検討をしていきたいと考えております。

## 第28回

全日本技術選手権大会出場者

- 期日 平成3年3月11日～15日  
会場 八方尾根スキー場
- ▼男子総合(予選)  
95位 川崎 信之  
▼男子総合(決勝)  
136位 園部 修  
148位 工藤英明  
157位 堀 祐樹  
167位 宮城洋二  
186位 門脇 均  
189位 大淵泰蔵  
209位 福島淑彦
- ▼女子総合(予選)  
7位 茂木かおり  
9位 浜岡 由香  
11位 永田 陽子  
12位 森本 珠水  
14位 平尾 真理  
15位 佐藤 まり  
16位 岡村佳名子  
19位 田村 真澄
- ▼女子総合(決勝)  
19位 田村 真澄  
26位 伊藤 明子  
27位 川崎 信之  
20位 堀 祐樹  
22位 大淵 泰蔵  
25位 岡部 修  
26位 福島 淑彦  
27位 宮城 洋二  
30位 工藤 英明  
41位 宮沢 謙  
48位 工藤 貴祥  
49位 大坂 恒治  
52位 水谷 智之  
55位 佐々木大志郎

第9回 南関東スキー技術選手権大会  
期日 平成3年2月1日～3日  
会場 車山高原スキー場

第4回神奈川技術選手権大会  
期日 平成3年1月25日～27日  
会場 五竜とおみスキー場

# 総務部

## 総務部の一年間

今年度は本紙を担当している福沢理事を新たに迎え、五人体制で当部の業務を進めた。増員となったので、業務範囲を広げ、事業外収益担当を設け、従来副理事長の担当であった協賛委員と県連アソシエーションの協賛委員と引き受け、前者は協賛委員との連携を密にする共に範囲の拡大をはかり、後者は恒久的に継続できる下地づくりをし、事業外収益としての目標は、ほぼ達成することができた。

業務内容の本年度の特徴は、一、ハイライトはこの県連だよりのダイレクトメール化。従来クラブ担当者より配布していたのだが、会員に届かなかったり遅れたりのクラブもあり、クラブの手間を省きタイムリーの情報提供ができた。

二、行事案内もDMに乗せ、内容申込期限、集合時間など、主要項目を会員一人一人に届けたのも大幅な変更であった。

三、地区懇を復活させました。正直いって、運営は大変でしたが、各地区で、協会、クラブ、会員の方々と親しくコミュニケーションがとれ、成果となった。

四、パソコンが入った。業務の合理化を狙い念願のPC 9800を購入し、現在最適のソフトを調査中。

来年度は、フル活用し、まず会計業務から合理化していきたい。執行に当たっての総務部の従来の業務、各専門委員会も順調に進み来年度は会員サービスに更に充実させていきたい。

- ▼公認パトロール合格者  
山田憲彰(足柄)  
山口 正(横浜)
- ▼日赤救急員合格者  
期日 平成2年9月23日  
10月14日迄の4日間  
会場 横浜市民防災センター  
松本真帆 高橋章代 内田一郎  
松村 薫 田中純一 山田憲彰  
伊東貞治 菊池 進 山手学院  
後藤幸夫 与口 正 伊藤武文  
筑田則和 内田時雄 市東 茂  
上島秀男 清水 明
- ▼傷対委員会  
傷対委員会では雪なし果として、安全普及推進員の立場から事故防止の啓蒙を図っております。  
毎年10月・11月頃にかけて、日赤救急員の養成講習会を実施しており、今回は17名全員が合格し、この中から2名がS A J 公認スキーパトロールに合格しました。おめでとうございます。今後の安全普及活動に期待致します。
- ▼第49回神奈川県スキー選手権大会  
期日 平成3年3月9日～10日  
場所 上越国際スキー場  
コース 上越国際大沢コース  
全長1175m 標高差 250m  
旗門数 34  
種目 大回転  
成年女子2部 1分9秒39  
一位 堀江美智子 横浜スキー  
二位 猪俣美由紀 I B M  
三位 堀内みゆき ソニー厚木  
成年女子1部 1分10秒88  
一位 福田 明子 横浜スキー  
二位 長谷川美枝 日立C E  
三位 木村 陽子 横浜でんぐ  
少年女子 1分11秒11  
一位 及川 展枝 日大高校  
二位 落合あかね 山手学院  
三位 市川真奈美 山手学院  
成年男子4部 1分4秒51  
一位 川村 剛 I B M  
二位 吉田 春雄 日立神奈川  
三位 前田 惣一 横浜ベガス  
成年男子3部 1分8秒39  
一位 堀内 康雄 横浜スキー  
二位 菱田 修 日産NTC  
三位 水野 浩二 日産車体  
成年男子2部 1分3秒69  
一位 大森 陸弘 ソニー厚木  
二位 立岩 将浩 N K K  
三位 若旅 健二 横浜スキー  
成年男子1部 1分4秒70  
一位 西 秀昭 神奈川若葉  
二位 柳 隆晃 入船鋼材  
三位 神田 貴之 慶応大  
少年男子 1分8秒85  
一位 李 英豪 日大高校  
二位 細谷 延彦 上溝南校  
三位 高橋 丈明 法政二高

## 指導員論研修会

### スキー教師は何を為すべきか?

特別講師 福岡孝純氏 大いに語る

指導員論研修会が二年ぶりに県内行事として、藤沢市民会館において開催(12/1)された。特別講師には世界スキー指導者連盟理事などを勤め、国際的に活躍されている福岡孝純氏を迎えた。古今東西の金言と逸話、伝説の世界から現在までのスキーの歴史をユーモアたっぷりに途中何回も会場を沸かせ、印象深い研修会を迎えることができた。当日の資料から先生の原稿の一部を掲載いたします。

スキー・スポーツの意義と役割  
ひとことでいえばスポーツとは、「結びつけ命をあたえるもの」である。

ヨゼフ・レックラー  
技術化が進展し、都市化、情報化、交通革命の進むなかで私達は単なる生産優先の効率至上主義に走るのではなく、一歩立ちどまって自らを取りもつ必要がある。忙しい心と心(ト)がぶれると書く、心がかたくなっている人が多いのではないか?

「スキーの心身を調整強化するはたらし、自然との調和格合の要求は、われわれにとって自然必然的

「自然なスキー」 福岡孝行著  
「あらゆるスポーツの中で、その王者に値するスポーツがあるとすれば、それはスキーにおいて他にない。スキーは筋力を鍛え身体をしなやかにしかも弾力的にし、注意力を高め、巧緻性を養い、意志力を高め、心気を爽快にするスポーツは他にない」

「現代に生き、自分自身であること」が最も重要なことである。この中で最も勇気ある「Dancer's atelier」の amateur 愛好家「スピ」ン、回転を与える方向性、共通の生きる喜び、生きる力を与えるもの。

「自然なスキー」 福岡孝行著  
「あらゆるスポーツの中で、その王者に値するスポーツがあるとすれば、それはスキーにおいて他にない。スキーは筋力を鍛え身体をしなやかにしかも弾力的にし、注意力を高め、巧緻性を養い、意志力を高め、心気を爽快にするスポーツは他にない」

「現代におけるスキー指導者とは」  
「プロフェッショナル：文化の継承者、宗教の伝道者、明言、公言、

「スキーの心身を調整強化するはたらし、自然との調和格合の要求は、われわれにとって自然必然的

「スキーの心身を調整強化するはたらし、自然との調和格合の要求は、われわれにとって自然必然的



- ▼第6回野辺山杯スラローム大会  
期日 平成3年3月31日～4月  
7日 場所 野辺山スキー場  
コース スーパーレッドコース  
種目 回転  
第1戦  
全長 384m 標高差 122m  
旗門数 1本目(39)2本目(41)  
女子  
一位 能勢英理子 上鶴間高校  
二位 山崎みどり ミワサス  
三位 金田 典子 日電横浜  
成年男子  
一位 野田頭美智也 関東自動車  
二位 田中 公文 (ベレイジィン)  
三位 荒谷 芳房 関東自動車  
少年男子  
一位 大塩 健司 (ベレイジィン)  
二位 高橋 丈明 法政二高  
三位 角田 昌紀 川崎中学
- 第2戦  
全長 384m 標高差 122m  
旗門数 36  
女子  
一位 西田 真実 川崎ユール  
二位 能勢英理子 上鶴間高校  
三位 堀内みゆき ソニー厚木  
成年男子  
一位 田中 公文 (ベレイジィン)  
二位 若旅 健二 横浜スキー  
三位 菱田 利徳  
少年男子  
一位 大塩 健司 (ベレイジィン)  
二位 榎並 正浩 (ベレイジィン)  
三位 中島 史晶 法政二高
- ▼'91全日本スキーマスターズ大会  
期日 平成3年3月4日～6日  
場所 岐阜県鈴鹿高原スキー場  
女子40歳代 二位 伏屋真澄  
男子70歳代 一位 田中正諠  
男子35歳代 二位 中村 英則

# 正指導員10名 準指導員103名

## ◆正指導員◆

### 第一会場 朝里

岡崎恵子 川崎ユール  
青山英孝 いすゞ藤沢  
甲斐貞生 小田原スキー

### 第二会場 安達良

田上勝 平塚スキー  
柴田秀一 平塚スキー

### 第三会場 野沢

梶浦勝 千代田化工スキー部  
多田賢 伊勢原市湘南スキー  
千葉豊 横浜YSスキー  
谷祐輔 ソニー厚木スキー  
稲田竜平 山手スキー愛好会

## ◆準指導員合格者◆

### (横浜)飯塚 裕 五十嵐 健

植松哲 千葉洋士 大田耕  
金子良幸 齊田憲一 村上哲朗  
池田俊昭 馬場義盛 宮下英夫  
加藤康雄 勝呂紀明 岡部智  
石倉保男 石川敦 佐々木博司  
山口生史 滝村隆志 増田誠  
伊藤徹 船越順一 関健太郎  
長澤宏治 渡川洋人 三本信篤  
齊藤豊 増田進 伊藤家作  
伊原寿 佐藤信一 大瀧浩一郎  
山田誠 植田匡英 岡村佳名子  
村上晃史 奥山覚 石井雄一郎  
佃圭 渡辺雄一 坂上祥一  
森山卓也 山崎晃一 桑原尚  
八幡昇 佐々木大志郎

## ◆A級公認検定員合格者◆

### 第三会場 野沢

小塚久雄 本田俊章  
佐藤長生 越前谷芳隆  
上村久 山内隆  
佐藤春男 細川直行  
高井美仁 堀裕樹  
大瀧泰蔵 第四会場 九頭電  
及川城司

## ◆B級検定員検定合格者◆

### (横浜)近島慶典 川上 涉

石毛良夫 内田陽裕 佐藤純夫  
谷川孝一 田中誠 中川要子  
菅野修一 山田豊利 鈴木英一  
村田宗高 蘭田美子 田崎俊章  
貝森玲子 本田衛義 池田登志男

## ◆C級検定員検定合格者◆

### (横浜)渥美守夫 久保田耕 三井 博

前田久代 梶浦勝 木田一夫  
仲條君夫 矢沢幸夫 齊藤秀俊  
中田正芳 小澤利夫 東屋芳和  
渡辺竜雄 松坂一男 保科健次  
奥野一成 鈴木孝一 五木田泰夫

水二千尋 笠井章 加藤あけみ  
駒瀬哲也 佐藤茂之 小島隆一  
小川透 本田昌弘 上田祐郎  
小島薫 桜井俊輔 佐々木生道  
横田雄二 小林淳一 山崎浩一  
小島宏之 三沢秀樹 小林弘明  
嶋田隆志 浜岡由香 柳田英俊  
福島淑彦 小林勝 平田稔  
岡本洋一 三宅秀一 岡崎明  
玉川忠弘 渡辺卓 鈴木尚史  
宮野入恵美子

高橋伸次 山形仁司 百海 延  
古矢 諭 (平塚) 百瀬史隆 栗原啓治  
(鎌倉) 大江山元信 三浦敏広  
(足柄) 高野良仁 高野貞仁  
(座間) 遠藤恵美子  
(伊勢原) 田中守 畑康太郎  
佐藤博一 (厚木) 乳井 學 日下正之 志村不二夫  
大塚孝史 伊藤潤 後藤直樹  
門水晃 浜田雅彦 (大和) 山田耕太 小島朋子  
(津久井) 向山利夫 井上正幸

藤原浩之 高柴一彦  
近藤猛 菊一伊助 佐々木健之  
加藤良子 絹山正大 本多賢弘  
佐藤一男 栗田謙悟 平沢幸一  
永井完二 村瀬豊 秋山健山  
松庭孝宏 井上重潮 下川徹  
石井剛 橋川康宏 柳沢秀行  
角田和希 宮田治郎 増田裕見子  
小原文男 山崎守 広沢達也  
住田秀一 石川恒男 伊東卓也  
小池頼行 田中三明 渡辺哲也  
(小田原) 渡辺智文 松浦哲也  
木村徳善 七尾 悟 松浦政博  
長崎正幸 上原邦嗣 高橋和浩  
青山雅之 門脇均 鍵和田喜一郎  
(横須賀) 上島秀男 平田茂樹  
秋山昇男 内藤雅史 倉茂伸治  
(相模原) 市川和彦 目代和彦  
大庭ヨシ子 齊藤和雄 二ノ宮勝行  
(茅ヶ崎) 中原和弘  
(藤沢) 星均 三本松俊夫  
西山裕美 高山晋作 竹内宏之  
今野英雄 工藤雄二 鎌田 充  
(平塚) 有我幸雄 和久井安治  
青柳修弘 松下啓久 池亀広志  
(鎌倉) 穴田峰昭 小谷 誠  
滝沢信宏 萩原敏秀 泉 ゆか  
(逗子) 広内政司  
(大和) 林 博光  
(足柄) 遠藤 功  
(座間) 中富夫 本山光芳  
力石一穂 (厚木) 辻 清明 玉山隆三  
(津久井) 山本英雄 大神田英次  
(南足柄市) 田中勝弘

今井 潔 糸井陽一 別府富士夫  
土方健司 鈴木智之 青木 理  
中島俊之 三橋富雄 安部 浩  
本橋 博 田村浩夫 四手井品子  
松尾裕之 今井雅彦 今野裕子  
松原隆司 柏谷芳昭 森田讓二  
平尾真理 木村哲也 西島尚博  
大竹賢 小泉純一 傘木宇明  
山田晴久 高橋章代 森 高繁  
馬淵善之 水谷智之 石原 敦  
松原賢治 神谷和 土田 博  
岡田一義 佐藤重隆 藤原志津江  
桐生幹也 伊藤昌代 竹山 誠  
清水 寛 松井一衛 大橋 豊  
内藤一昭 古川留美 森本珠水  
(川崎) 中村敏秀 井野昭司 渡辺輝彦  
富沢慶弘 佐野一行 南 君幸  
柏木章一 神崎研一 矢野雄一  
川村一広 瀧崎輝行 榎 一成  
菊地強二 畠中一浩 田村考司  
柏木 勉 木村勇次 小野水介  
山田祥司 高沢明宏 前田民敏  
山崎好晃 篠崎由美 高橋哲也  
三野 晋 時吉裕錫 久保田英考  
大阪恒治 伊藤明子 佐々木利春  
大坪卓 川崎信之 土井口辰也  
岡田明祝 濁川 晃 宮崎伸治  
小原良治 服部純一

一般女子1組 42秒96  
一位 瀨田加寿子 川崎スキー  
二位 中村真由美 川崎スキー  
三位 柴山俊子 横浜ベガス  
指導員女子1組 38秒87  
一位 四手井品子 教職員同好会  
二位 今野裕子 教職員同好会  
三位 大木真理 相雪スキー  
一般男子1組 47秒82  
一位 大沢保男 教職員同好会  
二位 丹羽一夫 横浜スキー  
一位 岡本重男 ユーベル  
三位 村石 勇 川崎いすゞ  
オールドパワー男子1組 38秒72  
一位 福沢洋治 横浜同好会  
二位 佐藤健一 日立戸塚  
三位 炭田正芳 わびこ  
一般男子1組 35秒25  
一位 工藤 克 朋友建設  
二位 白子博章 川崎スキー  
三位 川面都夫 日通工  
指導員男子1組 37秒50  
一位 善家英人 川崎スキー

競技選手女子1組 44秒96  
一位 島富美子 日通工  
二位 木宮晴代 ファルケン  
三位 川津昌美 日通工  
オールドパワー男子4組 41秒45  
一位 田中正諒 川崎いすゞ  
二位 松浦益司郎 雪友  
三位 細井健吾 横浜同好  
二位 稲場利光 ユーベル  
三位 藤木 昇 横浜同好会  
一般男子3組 37秒52  
一位 小田嶋勝 川崎いすゞ  
二位 吉野利和 教職員同好会  
三位 大井 仁 東洋通信機  
一般男子2組 38秒78  
一位 小林孝志 教職員同好会  
二位 戸沢真美 秦野スキー  
三位 二ノ宮勝行 川崎スキー  
指導員男子2組 36秒47  
一位 三塚洋二 相雪スキー  
二位 佐藤茂之 教職員同好会  
三位 柳沢秀行 川崎スキー  
指導員男子1組 37秒92  
一位 古川義尚 ユーベル  
二位 塚越 孝 日立神奈川  
競技選手男子3組 36秒72  
一位 荒木豊志 東電ロボック  
二位 山下慶二 日産車体  
三位 竹内和幸 日立神奈川  
競技選手男子2組 36秒23  
一位 中島真一 スポーツマン  
二位 長谷川稔 ユーベル  
三位 荒井晃一 東電ロボック  
競技選手男子1組 33秒48  
一位 伊藤昭彦 朋友建設  
二位 土屋祐一 ダックス  
三位 前垣泰延 東プレ

五月九日早朝、草加市の自宅に於いて死去されました。病名は、急性肺炎とのことでありますが、肺ガンの模様。享年74歳。故人は、神奈川県所属正指導員第一号ライセンス所持者であり、川崎スキー協会の会長を長年歴任した他、神奈川県スキー連盟副会長、顧問さらには本会の会長として、各種行事にも元気を添えて活躍されてきたのが目に浮かぶ様です。故人は、その人柄がスキーにも直結する様な飄々とした滑りは、今でも思い出されます。ここで故人の御冥福をお祈りするとともに、故人からの教えを糧として今後のスキー活動に十分生かして行く所存です。(片岡)



「訃報」  
神奈川県スキー指導員会  
土田 彌輔  
会長急逝

「SAKだより」No.27号の編集にあたりまして、ご多用の中を貴重な原稿をお寄せいただきまして執筆者の方々に厚くお礼を申し上げます。お陰様で無事編集が終了しました。ご協力いただきました広報委員の皆様方に感謝申し上げます。広報委員会では、前号の内容について検討し、現行方針を継承しながら、広く各会員全体に亘って果敢について理解を得るような内容を基盤として、早いニュースをお届けするため5月発行で編集しました。今回は、二十六号に引き続きダイレクトメールで直接、会員に発送しました。各行事成績等、本県選手の数々の活躍の様子を思い起こしていただければ幸いです。今後の皆様方のご指導、ご協力をお願いいたします。(広報委員長 福沢洋治)

## 編集後記

# 指導員 NEWS

## 第10回カザマカップ争奪 オール神奈川スキーヤーズ大会

野辺山スキー場  
日時 平成三年二月二十四日  
場所 野辺山スキー場

株式会社カザマスポーツインタナショナルの全面的な協力により、レベルの高い競技会に加え、競技スキーの魅力とその楽しさを体験できる大会をコンセプトに野辺山スキー場で開催された。

第10回カザマカップ争奪 オール神奈川スキーヤーズ大会  
神奈川県スキー連盟を中心に活動するスキー愛好者が一同に会する大会として10回目となる。

野辺山スキー場で開催  
株式会社カザマスポーツインタナショナルの全面的な協力により、レベルの高い競技会に加え、競技スキーの魅力とその楽しさを体験できる大会をコンセプトに野辺山スキー場で開催された。

日時 平成三年二月二十四日  
場所 野辺山スキー場